

令和5年度立山博物館運営委員会議事録要旨

1 日 時：令和5年9月29日（金） 午後2時から3時21分まで

2 場 所：立山博物館 教算坊

3 出席者

(1) 委 員

伊東委員(委員長)、伊藤委員、佐伯(健次)委員、三宮委員、杉田委員、田中委員、谷崎委員、増田委員、山崎委員、六角委員

(2) 博物館

立山博物館 岡田館長、島田副館長、奥澤学芸課長、鈴木副主幹、瀧川主任、吉野主任
専門員

文化振興課 矢後主任

(公益財団)富山県文化振興財団 長井施設管理課長、毛利副主幹

4 委員長互選

互選により伊東委員が委員長に決し、副委員長は委員長が佐伯(健次)委員を指名。

5 報告・審議事項

- ・博物館の運営・活動状況について
- ・今後の博物館の運営について

6 主な発言概要

質疑応答

(委員)施設を見る順路としては博物館、遙望館、まんだら遊苑となるのか。まんだら遊苑を体験してから他の施設を見るなど、一つの施設を見たときに他の施設に引っ張る工夫があればよいのではないか。

(立博)立山博物館のコンセプトは展示館のある教界で学んだ上で、閻魔堂や布橋、遙望館の聖界を巡り、まんだら遊苑の遊界に至るという3つのゾーンを順番に歩いて有機的に繋ぐというもの。最近では、まんだら遊苑を目当てに来られる方が多いので、そこから展示館の方に誘うことも必要と考えている。国の文化観光拠点事業の認定時にも立山博物館は広域分散施設で各施設が面白いが、それぞれの繋がりが薄いとの意見があった。一つの施設を見た後で次は何処の施設へ行けば良いか看板などを工夫すべきと考えている。

(委員)ホームページなどに「学んでから見る」という説明がもっとあれば良いと思う。まんだら遊苑を目当てに来られた方が、見終わって帰ってしまうのではなく「展示館で立山信仰を学んでから帰ってください」というメッセージも伝えれば良い。一方通行でなく環状に循環するような方向性もあれば良い。

(委員)最近はウォーキングでも自転車でもルートが流行っている。周辺には石仏など興味深い史跡が多く繋ぎを考えられると村全体が博物館になって楽しいものになる。ヨーロッパの観光地ではすぐ見学するのではなく、地域の有料ガイドが付いて 30 分は歩かせて、地域で食事、買い物をして地域振興としている。

(委員)昔は各施設を歩いて周ったが、最近の校外学習では博物館とまんだら遊苑を個別に考えているようだ。外国人リピーターには有名観光地を周るだけでなく、地方の観光地で地域の人と触れ合いながら散策・歩くのを好む方も増えつつある。

(立博)以前ミシュラングリーンガイドの調査員が来られた時に立山の雄大な自然も素晴らしいが、教算坊の庭とか閻魔堂とか布橋とか村の中を歩いて周る部分を非常に評価され星一つをいただいた。

(委員)世界的に知られると良い。雪の大谷もそうだったがインバウンドは増える時には急増する。多言語化についてだが、携帯の自動翻訳などで大丈夫のようだ。

(委員)ボランティアのガイドの方の説明が非常に良い。報酬をキチンとしてボランティアガイドを活用してはどうか。

また、多言語化は、外国人富裕層などアラブの方とか色々なので看板とかを英語などの言語で整備しつつ、QR コードとかスマホの翻訳ソフトなど IT を活用してお金を掛けないで誘導できる工夫をするようにすれば良いと思う。

(立博)QR コードは活用していきたい。看板に全部の言語は書けないので絞って英語だけにしてその他の言語を活用できるようにしていきたい。

(委員)文化観光拠点事業の予算は企画展などのイベントには使えないか。

(立博)事業対象は効果が多年に及ぶものとされるので、単年度で終わる企画展は難しい。